

I-1 指導計画の作成	
成 と 改 善	子どもの発達、成長を長期的にとらえ、前年度より少しずつ方向付けを行うことで新しい活動もあせらず進めることができた。特に、運動会を6月に実施することから、年中・長児としての意識が育っていることを長い計画の中から感じている。これからも柔軟性を持って保育に努めていきたい。
I-2 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）	
成 と 改 善	異年齢間での遊びや縦割り活動、合同保育、担任の交換保育等、多くの体験活動を通して喜びや楽しさが感性を刺激し、生きる力の基となっている。
I-3 保育環境	
成 と 改 善	朝の清掃から園庭整備、遊具の点検等の安全面や衛生面を、園児の保育環境としてしっかり整え、怪我のないように努める。
I-4 保育記録の作成	
成 と 改 善	次につなげる大切な一歩として日々の記録は保育者として欠かせないため、細かく残すようにする。子どもを見る目が自分自身を変えていくことも研究会等への参加で実証されている。
I-5 情緒の安定	
成 と 改 善	保育者自身が安定した思いで子ども達と向き合うことが大切である。環境の要因として言葉づかいは常に気をつけたい。
I-6 健康管理	
成 と 改 善	幼児一人一人の日々の健康状態を把握し、日々楽しい園生活が過ごせるよう家庭との連携を図る。

Ⅱ－7 保護者への対応	
成 と 改 果 善	職員間の連携や情報の共有をさらに細かく行い、すべての職員がすべての保護者と良好な関係を築けるよう努める。

I－8 保育にあたっての留意点	
成 と 改 果 善	上司や同僚と、お互いが高め合えるよう良好な関係を築く。

I－9 特別支援教育	
成 と 改 果 善	支援を要する子や気になる子の存在は周囲の協力が必要なため、家庭と連携しながら全職員で支え、関係機関とも連携を取り、指導を仰いでいく。

まとめ	
成 と 改 果 善	一年間の保育を改めて振り返り、取り組んだことの意味や効果などを話し合うことで、自分では気付かなかったことを新たに知る機会にもなっています。多くの項目から一人ひとりが真摯な態度で子ども達と向き合い協力して、園運営に携わっていることを認識できた良い機会となりました。